

審議会未定稿

第1回大山崎町上下水道事業審議会 会 議 録

日 時：令和6年10月15日（火）午前10時00分～11時50分

会 場：大山崎町役場 3階中会議室

出席者：委員7名（オンライン出席者2名）

西谷委員・佐藤委員・佐々谷委員・清水委員・藤原委員・細井委員・吉川委員（別紙、委員名簿参照）

町長、事務局（環境事業部長・上下水道課長・上下水道課参事業務・府営水道係リーダー・上水道係リーダー・業務・府営水道係）

傍聴者：なし、報道機関3名

1. 開 会（省略）
2. 委嘱状の交付（省略）
3. 町長あいさつ（省略）
4. 委員及び事務局職員紹介（省略）
5. 会長及び副会長選出（省略）
6. 会長及び副会長あいさつ（省略）
7. 諮 問（別紙、諮問書参照）
8. 議 題

（1）大山崎町上下水道事業審議会に係る Web 会議システムを利用した出席に関する要領について

（2）審議会の運営・スケジュール等について

（3）大山崎町上下水道事業の概要等について（別紙、第1回審議会資料参照）
各議題について、事務局から説明後の議事は以下のとおり。

発言者	内 容
事務局	水道事業の概要説明（省略）
会 長	水道は重力に従い低い場所へ流れるため、高い所にある配水池にはポンプで水を送る必要があります。大山崎町では、1つの浄水場と京

	<p>都府からの水を利用しており、京都府の水は川から取水し、浄水場は井戸水を使用しており、約6対4で水をブレンドしています。</p> <p>また、浄水場は浸水区域に位置しているため、浸水対策や耐震化が必要であり、経営状況は厳しい。このような背景を踏まえ、ご質問ください。</p>
委員	<p>料金の回収率が100%を下回っているということは、支払わない方がおられるという理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>料金の回収率についてですが、支払いを滞納する方が一定数いることは事実ですが、回収率の意味としては水を作り配るためのコストが、設定している料金を上回っている点です。そのため、現状の料金設定や水量では、水を供給するのに必要なコストを回収できていないという状況です。</p>
委員	<p>企業債という意味を教えてください。</p>
事務局	<p>企業債は、一般的に借金を指し、水道事業は公営企業として半官半民の形態を持つため、企業債と呼ばれています。</p>
会長	<p>水道事業は役場が運営していますが、基本的には自立した資金運営が求められています。工事のためには借金が不可欠となり、企業債が膨らむことが多く、世代間での負担バランスが重要となります。費用を現世代のみに負担させるのではなく、企業債を通じて適切に分散させる必要がありますが、企業債の増加が将来世代に過剰な負担をかける懸念もあります。</p> <p>また、有収率という指標も重要で、水道管からの漏水が問題となっています。特に山間部などの地形が複雑な地域では漏水が見えづらく、水の供給量と家庭のメーターの合計が合わないケースもあります。大山崎町の有収率は90%で、全国平均よりやや高いですが、山間部では80%と低くなることもあります。それに比べると、大山崎町は比較的安定して水を供給できていると思います。</p>

副会長	夏目浄水場が浸水地域にあるということですが、災害が起きた場合はどのような影響があると考えておられますか。
事務局	災害時の水の受水に関する問題に対処するため、平成 28 年度に山側で京都府営水道を受水する仏生田第 2 受水場が整備しました。この施設を利用することで、受水した水を各配水地に送ることが可能となり、災害時でも一定の水を供給できる体制が整いました。以前は夏目の浄水場から各施設へ水が供給していましたが、現在はその機能を山手に移した状況です。
副会長	もし浄水場を使えなくなっても、府営水道の方でカバーできるというような理解でよろしいか。
事務局	はい、府営水道の方の水を供給するという形になります。
副会長	水道事業に従事している方が 5 名、下水道に関しては 2 名とありましたが、この人数は他の自治体でも同様の状況でしょうか。また、下水道の担当者 2 名は世代が近かかったりして、技術継承が難しい状況にあるのか教えてください。
事務局	現在、水道の会議などで自治体の職員や技術職員が不足していることが課題として挙げられており、技術の継承や引き継ぎについては他の自治体でも問題のようです。先日の水道の会議では、職員が少ない中での検針業務の負担が話題になり、大山崎町では委託している一方で、他の自治体では職員が自ら検針を行っているケースもありました。水道・下水道に関しても技術継承・人手不足が課題となっている状況です。
会 長	浄水場が止まったときに仏生田第 2 受水場で今の配水量 100% をカバーできますか。
事務局	施設能力としては、カバーできる施設を備えています。

会 長	乙訓浄水場から仏生田第2受水場に来るパイプは太いため、1日の大山崎町の配水量を受水できるという理解でよいか。
事務局	府営水で1日の受水量を確保できる体制が整っており、災害時でも安定した水供給が可能です。また、乙訓浄水場からの水供給に加え、他の浄水場からの応援も受けられるように京都府営水の広域化が進められており、災害に強い水運用が整備されています。
事務局	下水道事業の概要説明（省略）
会 長	<p>基本的に下水は高いところから低いところに流れますが、大山崎町は京都の南部に位置しているため、下水を（自然流下であれば）大阪に流すこととなります。そのため、下水はポンプで一旦北側に上げられ、そこで処理されることとなります。</p> <p>雨水が逆流することがあるのは、主に雨水用のマンホールからであり、現在のマンホールは穴が空いておらず、雨水が下水に混入しないように設計されています。雨水は基本的に川に戻されるため、その際もポンプを使用して高いところから放り上げる必要があります。汚水に雨水が混入すると、京都府による処理費が増加し、料金が高くなるため、雨水は汚水に入らないようにされています。</p> <p>大山崎町の下水使用料は安価であるものの、近年の財政状況は厳しい状況です。</p>
副会長	<p>下水道使用料が一番安い（京都府内）とのことだが、財政的に苦しいのであれば、値上げが考えられるが実施していない理由があるのか。</p> <p>例えば水道料金と下水道使用料は一緒に請求するので、水道料金が高いため、下水道使用料を抑えているなどの、経緯を教えてください。</p>
事務局	下水道使用料の経過については、現行の下水道使用料は平成18年から改定されておらず、据え置きが続いています。平成26年までは、特に工場などが地下水を豊富に使用していたため、下水道使用料が多く入っていました。

	<p>このため、一般家庭の使用料は比較的安価で提供され、企業からの収入が全体の5割から6割を占めていました。しかし、近年では工場の節水機器の設置により水の使用量が減少し、企業に依存した現行の料金設定では厳しい状況となっています。</p> <p>さらに、令和5年から公営企業法が適用され、会計の構造が大きく変わったため、現行の下水道使用料だけでは不足している状況です。</p> <p>これに加え、本町の水道料金が京都府内で高い位置付けにあり、上下水道料金のバランスが取れていないため、長期間据え置かれてきた下水道使用料を、今後は見直す必要が出てきているのが現状です。</p>
副会長	<p>節水機器の普及が進んだということですか。</p>
事務局	<p>節水の機械を使用されて、それ自体は良いことですが、下水道事業の経営に関しては、厳しい環境になったということです。</p>
会長	<p>上水道と下水道合わせた議論も必要であり、下水道だけ見ていると見えないものがあると思います。</p> <p>赤字になった場合は、一般の税収から補填される可能性があります。本来は独立採算が求められますが、赤字が続くと一般会計からの手当が必要になり、最終的には企業債を利用して借金が増えることも考えられます。</p> <p>上水道と下水道を合わせた場合は、赤字・黒字どちらですか。</p>
事務局	<p>これまでの議会でも同様の質問があり、令和5年度の京都府下の各自治体の上下水道料金を調査した結果、平均よりも低い状況であることが分かりました。本町の特徴として、上水道は高く、下水道は最も安いという状況が挙げられます。しかし、今後は節水意識が高まる中で、どのように経営を行っていくかが課題であり、委員の皆様からの意見を本審議会で見聞を伺いたいと思っています。</p> <p>令和5年度の決算において、水道事業と下水道事業は黒字であるものの、その実態は一般会計からの繰り出しに依存している部分があるため、特に下水道事業に関してはその依存度を除くと黒字であるといえるかは難しいところです。</p>

会 長	繰出金を除くとどれぐらいですか。赤か黒か。
事務局	雨水については一般会計からの支出が必要であり、汚水に関しては赤字補填等の繰出が含まれている。赤字補填を考慮すると、現在の財政状況はトントンか少し赤字の可能性があると考えており、厳しい状況です。
会 長	次回目以降に具体的な数字を交えながら進めていくということで、今回は現在の状況は持ちこたえているものの、今後人口減少や節水の影響を考えると、先行きはあまり明るくないということまで共有できたらと思います。オンライン出席者はどうですか。
委 員	<p>次回以降の話ですが、水道・下水道の料金体系について、逡増度を含めた具体的な情報があれば、水道・下水道の収入状況が分かりやすくなると思います。</p> <p>今後、下水道の管路更新計画が今後の主な課題になると考えられ、そのためにどれぐらいの更新が必要かを検討する必要があり、下水道担当者が2名しかいないため、その人員の不足についても議論ができればと考えています。</p>
委員	<p>大山崎町の上下水道事業が、老朽化や耐震化の問題があり、下水の使用料が安いという背景も分かりました。</p> <p>確認ですが、下水の使用料を安く設定し、一方水道料金が高いので、下水道使用料を改定されてこなかったとの説明でしたが、今後審議会でも上水と下水を分けて議論し、料金設定をどうするのかということが、今後の経営を考えるポイントになってくると思います。</p> <p>今後、次回の会議以降に一般会計の繰出を含めて財政状況・財政の見通しなどで、水道・下水を分けて検討していくのか。</p>
事務局	先ほどの説明や会長の質問に関連して、住民にとっては上下水道料金が一つのものとして捉えられることが多いですが、水道事業と下水道事業は別々の会計で運営されています。

<p>会 長</p>	<p>そのため、水道事業会計と下水道事業会計はそれぞれ独立した財政計画や投資計画を持っており、これらを明確に分けて説明し、検討していただく予定です。</p> <p>もし、質問がなければ閉じさせていただいて第2回でいうことになります。</p> <p>(なし)</p>
------------	--

※ 発言者について、会長・副会長以外は委員と表記しています。

9. 閉 会 (省略)